



# 飯能ロータリークラブ会報



唐竹晩秋 Karatake in late autumn

© photo by Isao Yoshida

## ロータリーは世界をつなぐ

RI会長 マーク・ダニエル・マローニー

2570地区ガバナー 鈴木秀憲

第3グループ  
ガバナー補佐 徳永眞澄

つなげる：未来へつなぐ 変化：変える（基本に戻る）

第2883例会 2019. 11. 20

——ロータリー財団月間——

天候 晴 (NO. 56-21)

会長 土屋 崇 幹事 中里 忠夫

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 伊澤君、五十嵐君

例会場：ホテル・ヘリテージ飯能sta.

☎ (042) 975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局：東京電力パワーグリッド湘川越支社飯能事務所内 〒357-0021 飯能市双柳353-4

☎ (042) 974-3111(代) FAX (042) 973-1662

http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@titan.ocn.ne.jp

- ・点 鐘 土屋会長
- ・ソング それでこそロータリー 四つのテスト
- ・卓 話 相原貴弘様

### 【会長報告】

RC財団の大きな活動の1つが「ポリオプラス」。「ポリオ」はエンテロウイルス属のウイルスで、中枢神経に感染して、急性の弛緩性麻痺、四肢がだらりとするような典型的な症状を呈します。「小児麻痺」「急性灰白髄炎」とも呼ばれ、抗原は1~3型の3種。自然宿主はヒトだけ。経口感染で、糞便から排出されたウイルスが経口的にヒトの体内に侵入し、喉や小腸の粘膜で増殖。そのウイルスが血流に入り、その一部が脊髄を中心とした中枢神経に到達して脊髄の灰白質というところで炎症を起こし、典型的なポリオ症状が出現します。潜伏期間は平均15日。感染した人が全て発症するわけではなく90~95%は無症状、「不顕性感染」で、風邪のような症状で終わってしまい、感染者の0.1%が典型的な麻痺症状になると言われています。ポリオ症状に対する有効な治療法は無く、したがって、ワクチン接種による予防が第一の対策となるわけです。ワクチンには、経口の生ワクチン、注射の形の不活化ワクチンと2種があり、生ワクチンは予防効果は高いが株によっては接種で麻痺が発症。それが唯一の欠点です。ワクチンは1955年、ジョナス・ソーク博士によって開発されました。79年、フィリピン・マニラで最初のロータリアンがワクチンを手配して、J・L・ボーマー会長自らが接種活動したというのがRCのプロジェクトの第1号だそうです。その後、ポリオのない世界をつくる事が最優先事項となり、85年、「ポリオプラス」キャンペーンを発足させました。88年、WHOと協力、世界ポリオ撲滅運動を立ち上げ、これまでに5億人以上の子ども達に経口ワクチンが投与されました。日本では50年以降発生していません。生後3か月から90か

月の間に4回、四種混合ワクチンとして不活化ポリオを接種しています。パキスタン、アフガニスタンが現在も野生株の常在国。ナイジェリアは直近3年間に発症0で、常在国から外れました。2018年、野生株による患者発生33例、ワクチン由来104例。撲滅までもう一步の状態、RCでも「撲滅」から「根絶」へと用語が変わったという事でございます。

### 【幹事報告】

ホノルル国際大会に飯能RCからも是非参加を、との要望が地区より来ております。

### 【委員会報告】

◎親睦活動委員会 中山君  
11/24親睦ゴルフコンペ。8:50集合です。  
◎雑誌委員会 伊澤君  
「ロータリーの友11月号」横組P7、特集ロータリー財団月間。「未来の礎となる財団」過去5年間の寄付が日本は世界で第3位、約90億円だそうです。P10、寄付の分類や使われ方について。P30、1929年、京都で開かれた、国内初の地区大会での米山梅吉翁の写真。P40、財団創始者アーチ・克蘭フについて。縦組P4~ポリオ根絶に向けて。俳壇に日高の犬竹、清水会員の句が掲載されています。

【出席報告】無届欠席0 川口出席向上委員長

会員数		当日		前々回修正	
全数	対象	出席数	出席率	出席数	出席率
59名	6名	53名	89.83%		93.22%

### 【M U】

(地区) 中里(忠)君

### 【SAA報告】

◎ニコニコBOX

・相原理事長、本日は卓話よろしくお願ひ致します。

細田(尚)君、矢島(巖)君、吉島君、田辺君  
服部君、神田(敏)君

- ・ 10月の例会には長期にわたり休ませて頂きました。たまたま水曜日が検査日の日でありました。加齢を重ねますが頑張りますのでよろしくお願い致します。 細田(尚)君
  - ・ 本日の卓話は私のあととりの倅です。何となくテレるような心配のような、穴があったら入りたい気持ちです。皆様よろしくお願い致します。 本橋君
  - ・ 遅刻しました。 本橋君
  - ・ 早退します。 小川君、和泉君
- 本日計 12,000 円、累計額 454,501 円。  
◎ 27 日例会当番は石倉、神田(康)会員です。

## 【卓 話】

講師紹介 大崎プログラム委員長  
慣例になりました、JC 理事長卓話です。将来の飯能のロータリアンの供給ベースになって頂けるといいなと思っております。

## J C の 魅 力

飯能青年会議所 第46代理事長

### 相原 貴弘様

結論から申し上げさせて頂くと、JC の魅力というのは「自己成長」が出来る事だと考えます。

20~40才の青年期は仕事は忙しく、結婚をし、家庭をもちますが、多少無理がきき、スポンジのように何事も吸収出来るこの時期だからこそ普段味わう事の出来ない JC 活動をする事で 40 才後の華やかな人生を送る土台作りが出来ると考えております。しかしながら、皆様が在籍されていた頃と違い、JC のメンバー数は年々減少しています。よりよい変化をもたらす力を青年に与え、発展・成長の機会を提供する事が JC の役割です。JC に興味をもって頂き、身近な方に入会を勧めて頂ければと思います。

自己紹介をさせて頂きます。1982 年生まれ。両親が A 型の、生粋の A 型。まめで、気配りも出来、協調性もある。「ミスターパーフェクト」と JC メンバーからは言われます。23 才で結婚、家族は妻と一男一女。本橋会員のご長女と一緒にやらせて頂きました。福島県生まれ。警視庁勤務の父の関係ですぐに多摩市に移住。小学から大学までは入間市、就職して横浜に住み、(現在の勤め先の) 仕入れ商社で学びの多い 5 年の修業を経て 28 才で叶木材(有)に入社しました。JC との出合いは 2012 年 5 月。本橋社長の紹介で理事長・大野厚哉氏、専務・田辺直也氏、拡大委員長・横手則和氏の 3 名が弊社に来られ、その場で仮入会書に記入しました。その時は「月 1 の例会に来てくれればいい」とのお話でした。飯能に越して来て、このまちに何かしようという気持ちがそもそも無い状況で例会に初参加。JC ミッション等の唱和を聞いた時には、大いに戸惑い、衝撃を受けました。入会して 8 年ですが、最初はトラブル等もありました。会費、協賛金、会議所からの資金を運営費としている JC ですが、そのしくみが対象団体や一般市民の方にはなかなか伝わっていないという実状があります。台風 15、19 号等の被災地には一番に救援物資を送り出しているのですが、こういったところがメディアに取り上げられる事はあまりなく、残念に思っています。青少年育成事業も行っていますが、共感を得られているのはごくわずかな部分という気がします。また、JC メンバーは個性が強く、気持ちを一つにするのは難しいとも感じます。

そんな大変な事もある中で、辛い時期に救ってくれるのも周りのメンバーであり、多くの先輩方と関



わりをもてる事も僕の財産になっています。初めての例会後の懇親会で声を掛けてくれた矢島崇行先輩は神様のように見えました。同じ委員会では沢辺、柏木、松丸先輩等にも親切にして頂きました。後に矢島委員長で僕が副委員長、矢島理事長で僕が専務という関係にもなりました。矢島理事長には「トップたる者、腰をしっかりと落として、何があっても歯を食いしばってその時が来るのを待つ」という名言があります。私と正反対の繊細な性格で、JC でなければ会う事はなかったのかなと思います。田辺氏等、同期委員長のメンバーと苦しい時期を共有出来た事も財産です。振り返ってみれば、たくさんの学び、「自己成長」、多くの気づきを与えてもらいました。大人になってから仲間が出来るとするのは非常に恵まれた事であり、皆様にも同じ事が言えるのではないかと思います。仕事以外に、一つの目的に互いに協力し合い、切磋琢磨出来る関係の仲間はなかなかないような気がします。仕事面でも視野が広がり、「国際マッチング」も行いう事が出来る。そんな仲間達と同じまちに暮らす事で、まちへの思いも強くなりました。

就職した時には無かった会社への思い。一つには「社員の幸せ」です。社内で役職が上がるにつれ、立ち振る舞いやお客様との接し方等、自分を変える事が必要だと気づかされました。そして、だんだん変わった事で余裕が出来、社員と関わり合う事が出来るようになりました。「社員が何を求めているのか、どうしていききたいのか、どうなりたいたいのか」を知り、環境を変えてあげる事で会社に好循環が生まれ、社員と会社が共に良い方に向かっているように思います。社員の子ども達にも、うちの会社で働きたいと言ってもらえるような会社にしたい。親が家で、会社のいい所やポジティブな事を言う事で、子ども達も自然に「そういう所に勤めたい」と思います。この地域で永続的に商売出来るという事が、何よりもまちづくりに繋がり、親孝行でもあると考えます。

こんな事を考えられるようになったのも JC のお蔭だと思っております。人前で話をする事が出来るようにもなりました。「失敗してもいい」と JC ではよく言われます。ただし、チャレンジの前に考えや行動をまとめる事が必要です。まちに対する考え方も変わり、今は子ども達にまちの良さを知ってもらう事が一番だと考えております。

JC 活動は一人ではなく仲間と取り組む事が多いです。だからこそ、周りのメンバーに気を配ったり協調性を身に付けたり、誰でも受け入れられるようにもなりました。後回しになってしまいがちな家族とは、濃い時間を過ごす事が大切だと考えています。

こんな私でもたくさんの学びを得て「自己成長」し理事長をさせて頂いています。JC での 8 年間で、たくさんの成長の機会、絆をつくってもらいました。残された 3 年間は恩返しとして、後輩のために尽力したい。時間の使い方等も解決策を見出せるように考えていきたい。自分の今までの経験と知識を発信する事でメンバーを導いていきたい。もっと飯能日高地域をアピールしていきたい。家族のためにしっかりと時間をつくりたい。8 年間、家族を犠牲にしてきたので、これからはその穴埋めをしていきたいと思っております。

最後に、会社のために貢献したい。JC で学んだスキルを活かし、社員へも伝播させながら、盤石な組織をつくっていきたくて考えております。青年期にどれだけの経験を積むかが一番大事だということを、今一度、お考え頂ければ幸いです。